

摘 録

会 議 名 令和2年度第1回刈谷市歴史博物館協議会

日 時 令和2年7月14日(火) 午後2時00分～4時00分

場 所 歴史博物館 1階講座室

出 席 者 協議会委員：西宮秀紀(会長)、吉田俊英、堀江登志実、山田孝、吉牟田徹也、石橋保尚、成田年秀(敬称略)

※真島聖子委員、伊東緑委員、三浦和美委員は欠席

事 務 局：岡部直樹(市民活動部長)、加藤隆司(歴史博物館長兼文化振興監)、加藤謙司(文化観光課長)、中尾理恵(歴史博物館長代理)、五十嵐正也(学芸員)、水野節子(学芸員)

内 容

1 岡部部長、加藤課長紹介・あいさつ

2 新任委員(吉牟田委員)紹介

3 議題

(1) 令和元年度の状況について

別紙「令和元年度の状況について」にもとづいて、令和元年度の事業概要及びその結果について説明。

(A委員) 常設展の展示替えだが、以前も伝えたが、南部と北部をもう少し意図的に重視して展示すべきである。

(事務局) 今回の展示替えで、佐藤峻吉氏関連として東境村などの北部の資料を展示している。

(A委員) 北部の中の北部、井ヶ谷や西境なども展示してほしい。特に西境は、江戸時代はほとんど刈谷藩とはかかわりがなかった。そういう特色のあるところを展示してほしい。

(B委員) 外に食事等ができる場所がほしいという意見がアンケートでもあったが、最近の博物館は展示だけではなく、プラスアルファの部分で魅力発信する館が多い。博物館単独ではなく、体育館や亀城公園、郷土資料館を含めたゾーンで考えるべきである。

(B委員) 館内は撮影可能なのか。

(事務局) 撮影は原則可能である。企画展はその企画展ごとに異なる。

(B委員) 撮影可としているならば、もっとアピールした方がよい。ギャラリートークなどを撮ってホームページなどで公開するのもよい。

(事務局) 現在、動画の配信やギャラリートークのやり方など検討しているところである。

(C委員) 当館では、動画を撮影してホームページで公開している。また、館内撮影は個人使用に限って全面的に可としている。最近、オンライン授業や会議などで急速にいろいろな方法が編み出されている。それらを活用すればよい。

(D委員) 小学生の見学などで、駐車場に降り立った時からワクワクする仕掛けがあると、より博物館に興味を持つと思う。館内に入るとある種の緊張感に包まれて構えてしまうので、館内音楽などがあったほうがよいのではないか。

(2) 令和2年度の予定について

冒頭に別紙「新型コロナウイルス感染症対策について」にもとづいて、博物館の新型コロナウイルス感染症対策について説明。

その後、別紙「令和2年度の予定について」にもとづいて、今年度の事業概要について説明。

(D 委員) そもそも体調不良者は来館しないのではないかと。

(E 委員) どういう基準で体調不良を判断しているのか。

(C 委員) 当館では、入口にサーモグラフィーを置き、体温37.5度以上あるいは平熱+1度以上で再検査し、それでも熱がある場合は入館をお断りしている。現在のところ、熱で入館を断った事例はない。検査をしているということだけで抑止力にはなると思う。

(B 委員) せめて連絡先だけでも書かせるべき。それさえも断るならば入館を断る。当館では、県の方から必ずやるように言われている。当初は、他県からの来館者も断っていたが、それは差別であると批判され、現在は他県からの来館者も受け入れている。

(F 委員) 緊急事態宣言が解除されるまでは、当館でも検温や連絡先記入は行っていた。

(A 委員) サーモグラフィーを導入できればよいが、予算上の問題などがあるのだろう。

(B 委員) 予算上の問題もあるが、メーカーの供給が追い付いていない可能性もある。

(事務局) 市全体の流れがあり、市内の他施設と足並みをそろえる必要がある。イベント等は先着順ではなく、事前申込制にし、連絡先などを把握するようにしている。

(E 委員) 危ないと思ったら、周りに合わせるのではなく、館独自でやればよい。県内の感染状況も見つつ臨機応変に対応すべき。

(A 委員) 来館者に連絡先を記入させるぐらいはしてもよいのではないかと。

(B 委員) 住所などを記入するのは嫌がる人もいるが、携帯電話の連絡先や名前ぐらいは嫌がらない。

《徳川家康の遺産展について》

(A 委員) 国宝や重要文化財が来るとなると警備体制も今以上に増強すべきだと思うが。

(事務局) 徳川美術館と警備体制について協議中である。

《収蔵品について》

(C 委員) 収蔵品展で、刈谷に関係はないが重要な収蔵品を展示するということが、そのような収蔵品のデータベースはあるのか。

(事務局) データベースはあるが、現在データ整理中であり、一般には公開していない。

(C 委員) 早稲田システム開発のクラウドを導入していると聞いているが、他館も同システムを導入しているところが多い。同システムを公開するように設定すれば、他館がどういった収蔵品を持っているかが一目でわかるし、刈谷の収蔵品も他館の利用に供することができる。一度検討されたい。

《郷土資料館について》

(A 委員) 郷土資料館は歴博の管轄になったという認識でよいのか。

(事務局) 組織上は横並びである。

(D 委員) 昭和時代のくらしや民俗の展示が郷土資料館ならば、そのすみわけをホームページ等で周知すべきである。

(A 委員) 民俗資料は全て郷土資料館保管であるのか。

(事務局) お見込みの通り。

(B 委員) 現在、昭和の暮らしを取り上げた展覧会は人が入る。ぜひ、歴史博物館と郷土資料館が連携してPRすべきである。館長も兼務ということなので、より一体的に運用できると期待している。

(A 委員) 予算も組織も横並びで別個にするのではなく、一体化して運用した方がよいと思う。